



いしかわ労福協

新年号 2025年1月15日

発行所 石川県労働者福祉協議会
発行責任者 福田 佳央
編集人 上野 貞彦
〒920-0024 金沢市西念3丁目3番5号
電話 (076) 231-1737
FAX (076) 231-1731
<https://www.ishikawa-rofukukyo.jp>
info@ishikawa-rofukukyo.jp
毎月1回 25日発行



石崎奉燈祭

©石川県観光連盟



(一)石川県労働者福祉協議会

理事長 福田 佳央

新しい年が明けました。皆様は様々な想いで、新しい年をお

迎えになられたと思います。

被災された皆様には、元日の地震に続き、9月の豪雨も重なり長い1年であったと思いますし、11月の末に起きました石川県西方沖を震源とする地震にも心配をしながらの新年であったと思います。

石川労福協としても、その様な皆さんに少しでも寄り添えるように今後とも被災地の状況をみながら、関係団体と連携し、支援活動を展開していきます。

昨年は、被災地へのボランティア活動の傍らで労福協グループの体制整備を進めてきました。

なかでも、各地域ライフ・サポートセンターは、連合石川の各地域協議会と連携し得る現役主体の体制へと改編しました。また、県域の取り組みとして、能登復興祈念チャリティゴルフコンペや石川県ふれ

被災地に想いと行動を寄せ、良い年に

あい昆虫館での謎解きイベントを実施しました。

また、石川労協では、日本労働者信用基金協会への事業譲渡を終えるとともに、フードバンクネットの事務局業務を新たに開始、また労福協の主要課題である奨学金事業のスタートに向けて準備を進めています。

国会では、103万円の壁問題が扱われましたが、所得税の課税最低限は95年以降見直しが行われておらず、直近の物価動向などを踏まえれば見直す必要があると考えています。一方で、いわゆる壁の問題は、所得税だけではなく社会保険などもあるため、税と社会保障を一体的に改革していく必要があります。

石川労福協には、社会的な不合理を是正し、弱い立場の方、勤労者・生活者に向けての取り組みが求められています。

被災地に想いと行動を寄せつつ、労働者福祉の取り組みを進めて参ります。本年は会員の皆様にとって良い年になりますようご祈念いたします。

災害からの復旧・復興と成長する産業づくりに向けて

石川県知事

馳 浩



令和7年の新春を迎え、皆様には、謹んでお慶び申し上げます。また、日頃から県政の推進にご理解とご協力を賜っておりますことに、心から感謝申し上げます。

県政史上未曾有の大災害となった令和6年能登半島地震の発生から、一年が経過しました。これまで、県内外からの多くの方々の支援を頂き、改めて御礼申し上げます。

県では、発災直後から、被災者の救助や生活支援、各種インフラの応急復旧に加え、被災された事業者の生業の再建へ向けた取組を着実に進めてまいりました。しかし、9月には令和6年奥能登豪雨により再び甚大な被害が発生し、復興への道のりは長く険しいものがあります。昨年6月に策定した「石川県

創造的復興プラン」に基づき、引き続き、国、被災市町と緊密に連携し、一日も早い復興に向けて、様々な課題に全力を挙げて取り組んでまいります。

特に被災地の雇用対策につきましては、奥能登行政センター内に「ILAC能登」を設置し、プッシュ型の相談対応、在籍型出向の活用促進、業務の切り出しの支援等を行い、被災事業者の雇用維持・人材確保や被災者の就労支援に努めております。

貴協議会におかれましては、就業等の相談への対応や仕事と育児の両立支援など、本県の労働者福祉の向上に多大なご尽力をいただき、深く感謝申し上げます。

この新しい年が皆様にとりまして、明るい展望の持てる年となるよう心からお祈り申し上げますとともに、県政に対する一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。

石川県市長会

会長 村山 卓

(金沢市長)



令和7年の新春を迎え、年頭のご挨拶を申し上げます。皆様方には、日頃から県内各市の市政推進に多大なご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げますとともに、労働者の生活の安定と福祉の向上にご尽力をいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

昨年、能登半島地震や奥能登豪雨災害がありました。被災された皆様へ心からお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興をめざし、引き続き、被災者に寄り添った取組を進めてまいります。

さて、コロナ禍を経た社会経済状況の変化に加え、物価高騰や労働力不足、最低賃金の引上げへの対応など、事業者を取り巻く環境は厳しさを増しております。こうした中、引き続き、市民生活の安全安心の確保と地域経済の一層の活性化に取り組むため、女性の活躍促進や若者の地元定着についても、貴協議会をはじめ関係団体等の皆様と連携協力しながら取り組んでまいります。

新しい年が皆様にとりまして、明るく希望に満ちた年になりますようご祈念申し上げますとともに、本年もより一層のお力添えを賜りますよう心よりお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。

石川県町長会

会長 矢田 富郎

(津幡町長)



謹んで新春のお慶びを申し上げます。

本年も、県内各町の振興発展と住民福祉の向上に決意新たに取り組んで参りますので、力強いご支援とご協力をお願いいたします。

昨年は、元日に発生した能登半島地震、さらに9月に発生した奥能登豪雨により、多くの方が被災されました。

亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被害に遭われた方へ、心からお見舞いを申し上げます。

そして、今年は穏やかな年になるよう、心から願っております。

さて、北陸の経済動向については、震災の影響はありつつも、復旧・復興需要や北陸新幹線の敦賀延伸効果等もみられることなどから、緩やかに持ち直しているようですが、依然として円安や原材料費の高騰による物価上昇が私たちの生活を直撃しており、多くの人々が厳しい状況に置かれています。

また、人口減少と少子・高齢化など、社会の構造的な課題に加え、元日の能登半島地震、9月の奥能登豪雨という2つの大きな災害からの復興、地域の再生へ向けて、私たち自治体は雇用の維持と定住促進のほか、セーフティネットの充実等の施策に全力を尽くしていかなければなりません。

石川県労働者福祉協議会並びに関係の皆様におかれましても、自立する地域行政のため、安全で安心して暮らせる地域づくりのため、更なるご支援、ご協力を切にお願いいたします。

結びに、本年が皆様方にとって健康で幸多い一年でありますよう心よりお祈りいたしまして、年頭のご挨拶といたします。

労働者福祉中央協議会
会 長 芳野 友子



新年明けましておめでとうございます。

物価高や急速に進む少子化、貧困の深刻化など、私たちを

取り巻く状況は厳しさを増しています。

今こそ、私たちは、ライフサポート活動、こども食堂の取り組みなど、地域の様々なネットワークで支え合い助け合う取り組みを、力をあわせて進めていかなければなりません。

高等教育の負担を軽減する取り組みでは、「団体賛同・個人署名」の取り組みを進めてきました。多くの方々にご協力いただきましたことに、心からお礼申し上げます。引き続き取り組みを強化していきます。

また、今年は国連の定めた国際協同組合年です。労働者自主福祉運動や協同組合運動などの共助の輪を広げる取り組みを、ともに進めていきましょう。

今年も「貧困や社会的排除がなく、人と人とのつながりが大切にされ、平和で、安心して働きくらせる持続可能な社会」を実現するための取り組みを全力で展開していくことをお誓い申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

北陸労働金庫
副理事長 西田 満明



新年明けましておめでとうございます。旧年中は北陸労働金庫をご愛顧いただき、心よりお礼申し上げます。

北陸の経済は、一部に能登半島地震の影響がみられるものの、緩やかに回復しています。

金融機関を取り巻く環境は依然として厳しく、金融市場の変動性が高まる中、内外経済の先行きが不透明感を増し、大きな変化を続けています。

そのような中、弊庫では生活総合福祉金融機関の使命・役割を果たすために、自主福祉運動推進での「個別面談」等を通じて、返済金の見直しを行うなど、働く方々の生活設計、資産形成、可処分所得向上に向けた「生活応援運動」に取り組んでいます。

また、復興応援定期預金「結（ゆい）」を発売し、お客様からの利息相当額とろうきんからの同額拠出の合計額を義援金として、令和6年能登半島地震、奥能登豪雨の被災地へ寄付いたします。

私たちは、「はたらくひとの笑顔をつなぐ“ろうきん” 未来につながる“ろうきん”」をビジョンとして、事業を進めてまいります。

結びに、皆様のご健勝と益々のご発展をお祈り申し上げますとともに、本年も変わらぬお引き立ての程よろしくお願い申し上げます、年頭に当たってのあいさつとさせていただきます。

日本労働組合総連合会石川県連合会
会 長 福田 佳央



新しい年が明けました。組合員の皆様は様々な想いで、新しい年をお迎えになられたと思います。

被災された皆様には、元日の地震、9月の豪雨と長い1年であったと思います。連

合石川は、その様な皆さんに少しでも寄り添えるように、全国の連合の仲間（延べ約3000人）と共に421人の組合員の皆さんにボランティア活動に参加をしていただきました。まだ、復旧は道半ばであり、今後とも被災地の状況をみながら、関係団体と連携し、被災地に寄り添った活動を展開していきます。

いよいよ、2025春季生活闘争が始まります。

2022闘争からスタートした「未来づくり春闘」は、23闘争で「転換点」をつくり24闘争では「ステージ転換」に向けた大きな一歩を踏み出しました。2025闘争では動き始めた賃金、経済、物価を安定した巡航軌道に乗せることを大きな目標としています。

昨年は5%台の賃上げが実現したものの、生活が向上したと実感している人は少数で個人消費も低迷しています。実質賃金が継続的に上昇することで個人消費を拡大し、賃金と物価の好循環の実現が必要であり、そのカギが、賃上げの広がりや格差是正、適切な価格転嫁適正取引の徹底、製品・サービスと労働の価値を高め認め合う取引慣行の醸成が必要です。

またこの間、労働組合の有無による賃上げ格差も広がりました。労働組合だからこそ、労使対等の立場で労働条件などの交渉ができるという労働組合の存在意義を社会にアピールし集団的労使関係を社会に広げていかなければなりません。

石川労福協関係諸団体、ライフ・サポートセンターの関係各位の益々の発展をお祈り致します。

(一財)石川県労働者信用基金協会
理事長 渡邊 雅人



新年明けましておめでとうございます。

労信協は、従前の北陸労働金庫の保証事業を日本労信協へ

昨年8月に譲渡し、現在は新事業の①高校生への給付型奨学金、②フードバンク事業支援、③文化教養セミナー開催の取り組みを進めています。既に能登半島地震で被害の大きかった奥能登2市2町の7つの高校の現1～3年生で罹災証明付の条件で、申込生徒すべてへの給付型奨学金を支給し始めています。また昨年11月から「いしかわフードバンク・ネット」の事務局を担い、連日食品の入庫受付や子ども食堂等へ受け渡しを行っています。

2025年春からは、県内の経済的な困窮を理由に学業が困難な高校生のうち、30名を対象とした給付型奨学金制度もスタートします。

そして、新事業に相応しい新たな組織名称への変更も2025年1月～2月に予定しています。

新組織・新事業づくりに向けて、さらなる皆様方のご理解・ご協力をお願いするとともにご健康とご多幸を祈念し、新年のご挨拶と致します。



こくみん共済coop 石川推進本部
本部長 黒谷 治夫

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

新年にあたり、震災・豪雨

の犠牲になられた御霊にあらためて哀悼の意を表するとともに、未だ不自由な生活を強いられている皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

旧年中は度重なる自然災害に直面する中、被災された皆さまの生活再建にむけた共済活動に格段のご支援を賜り、心より御礼を申し上げます。

本年も微力ながら、復旧・復興支援と防災・減災の取り組みをさらにすすめ、共済事業を通じてより大きな「たすけあいの輪」をむすんでまいります。

本年も皆様がお健勝で御多幸でありますよう、心からお祈り申し上げ、新春のご挨拶といたします。



石川県生活協同組合連合会
会長理事 大谷 学

旧年中は当会に多大なご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

令和6年能登半島地震から1年、お亡くなりになった皆様のご冥福をお祈りし、被災された皆様にお見舞いを申し上げます。

能登半島地震の発災から、生活協同組合は「たすけあい」の組織として、暮らしの再建に向けて支援活動に取り組んできました。これからも事業や活動を通じて、息の長い支援を続けていきます。

暮らしは、物価高騰が続き厳しさが増えています。これまで以上に、暮らしに寄り添い誰も取り残されることがなく、安心して暮らし続けられる社会をめざし一層の努力を続けてまいります。本年もよろしく願いいたします。



石川県勤労者体育協会
会長 高 芳晴

新年あけましておめでとうございます。

皆様には、健やかに2025年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

日頃、本協会の事業推進に、ご支援とご協力を賜り、心から感謝と御礼を申し上げます。

昨年の自然災害で被災された石川県民の皆様にお見舞いを申し上げます。私達は、これからもスポーツを通して、復興を支援して参ります。

また、日本で唯一の勤労者のスポーツ団体として、職域や地域において、スポーツの普及、振興を目指すとともに、誰でも気軽に参加できる大会を通して、健康づくりにも貢献して参ります。

結びに、本年も本協会の事業推進に、関係団体のご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



石川県勤労者文化協会
会長 大樋 長左衛門

新年明けましておめでとうございます。

皆様方にはご清祥にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。労福協、連合石川、各事業団体の皆様には日頃から勤文協へのご厚情に感謝申し上げます。

大震災で明けた昨年は、その後の大洪水などもありながらも、写真展を皮切りに、夏の美術展、勤美展と順調に開催することができました。

勤文協は、労福協事業の一環として、芸術・文化の向上に寄与するべく本年もご協力をお願いし、皆様方のご健勝とご多幸をご祈念申し上げて新年のご挨拶と致します。

中国・蘇州市総工会との交流を終えて

石川県労働者信用基金協会 理事長 渡邊 雅人

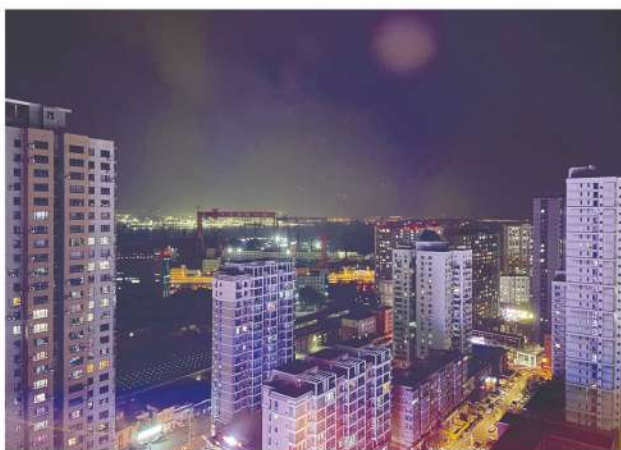
石川労福協は、1986年から親交を深めている中国・蘇州市総工会とは、これまで隔年で相互訪問を重ねてきました。

2019年に発生した新型コロナウイルス感染症の影響で交流が中断されていましたが、今般の蘇州市総工会の招へいにより、11月17日(日)から21日(木)の日程で、福田佳央石川労福協理事長(連合石川会長)を団長に、秘書長に渡邊雅人(石川労福協幹・石川労信協理事長)、団員に奥村賢志(北陸労働金庫)、根岸幸夫(こくみん共済coop石川)、安村裕之(石川労信協)の計5名で構成する代表团として訪問しました。

今回は、前半は蘇州市、後半は大連市の2都市を訪問しました。両市とも高層ビルが立ち並ぶ大都会の様相であり、夜になると、イルミネーションが色鮮やかに輝いていました。この先進的な街並みを見て、もはや昔の中国のイメージを払拭していると実感しました。

街中を走る車は電気自動車が多く、ナンバープレートの緑色が電気自動車、青色がガソリン車と判りやすく区分されていました。日本のような軽自動車はもちろん無く、高級車を数多く見かけ、富裕層の多さを感じさせる経済状況が窺われました。

しかし、交通マナーは良いとは言えず、「危険を感じ驚く場面」が多くありました。



蘇州市総工会との交流では、代表の陳文涛(調研員)氏をはじめとした総工会の方から連日手厚いもてなしを受け、初日の晩餐会ではお互い



福田団長から陳氏に記念品を贈呈

の国の文化や福祉、労働環境等について意見交換をしました。

晩餐会の席上、福田団長は、「石川労福協が所在する金沢市と蘇州市とは1981年に姉妹都市提携が結ばれており、既に40余年の交流が行われている。日中関係は進化しているが、まだ幾つかの課題もある。これまで以上に中国と日本がお互いに尊重し連携を強化するためには、蘇州市総工会と石川労福協のような働く者の福祉向上を目指した交流や、文化面での交流などによる市民レベルでの友好関係は、国と国との友好関係を深めることに繋がるものだと確信をしている。一層の友好交流を深めたい」と、蘇州市総工会と末永く交流が続くことに期待を込めて挨拶をしました。

企業訪問では、「蘇州福田金属有限公司」(金属箔事業)、「ヤマハエレクトロニクス」(楽器製造)、「PROTERIAL」(銅線製造)の3社を訪れ、各社から説明を受け、企業施設、福利厚生施設などを見学させて頂きました。



福田金属での企業説明



PROTERIALでの工場見学



ヤマハエレクトーン教室の会場

3社とも生産性向上や安全の取り組みが徹底され、特に福利厚生面の役割を労働組合が担っているところが多く、労使の協力により働く人に優しい職場づくりに力を注いでいる様子でした。



「虎丘」にて記念撮影

その福利厚生面でも、スポーツジムや文化教室、休憩室など、充実した施設が完備されておりました。

さらに、企業内では釣り大会、運動会、従業員の親子活動など、多くは日本でも過去に行われていた行事が実施されており、チームワークの創生には有意義

と感じました。

その後訪れた蘇州市の「虎丘」は959年に建設されたもので、「東洋のピサの斜塔」と呼ばれており、「蘇州に遊びて虎丘に遊ばずは遺憾なり」と言われるくらいの名所だそうです。実際に見て往時を思い浮かべました。

次に向かった「大連博物館」（大連市）は、18世紀からの大連と日本の関わりや、日露戦争後の日本統治期間の時代背景に対する理解と、その中で大連がどのような発展を遂げたかを知ることが出来る歴史博物館でした。

その他、「拙政園」（蘇州市）を見学し、「ヨーロッパ風の街並みの大連市内」などを見て廻りました。やはり異国の風景は、日常生活を忘れさせるかのような刺激がありました。

正直なところ、「反日感情が高い中国」への訪問に及び腰ではありましたが、実際に訪れてみて、蘇州市総工会での温かい歓迎や、毎日新しいことが体験できるなど、充実したものとなりました。

5日間、全員が訪問団として無事に蘇州市総工会との交流を図れ、目的を達することができました。

送り出していただいた各組織・関係者に感謝申し上げます。



大連博物館

訂正とお詫び

2024年12月25日発行第678/679号において、金沢市長のお名前を正しくは「村山卓」氏であるところ「村上卓」と誤って表記いたしました。ここに訂正させていただきますとともに深くお詫び申し上げます。